

大潟村連携教育を支える コミュニティ・スクールの推進

地域ぐるみで子どもの「学び」・「育ち」・「心」を支えます



2023年3月

大潟村教育委員会

学び

「考える力」「表現力」「意欲的に学ぶ態度」



今年度の重点

1 よく聞いて、考えて、関わり合う活動の充実



友だちと同じ空間で

2 読書活動の充実：発達段階に合わせた読書活動の工夫



お話タイム【図書ボランティア】

3 意欲的に学ぶ(遊ぶ)活動の充実



ICTを活用した音楽科の学び合い

◆成果

1 よく聞いて、考えて、関わり合う活動の充実

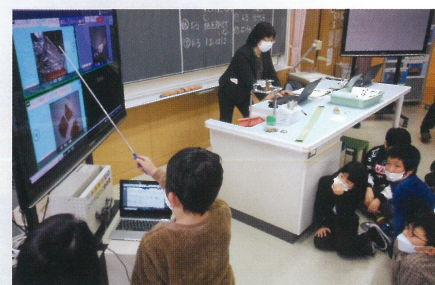
- ・保育者との関わりの中で、自分の気持ちを表現したり、主張したりすることができるようになってきた。
- ・「聞き方・話し方週間」を実施することで、聞く力と話す力の双方を高めることができた。
- ・ICTを活用することで、他者の考えをもとに自分の考えを広げたり、深めたりする生徒が増えてきた。

2 読書活動の充実

- ・図書ボランティアによる読み聞かせ、中学生による小学生への読み聞かせ、ビブリオバトルなど発達段階に合わせた読書活動を実施することができた。
- ・絵本の貸し出しなどをきっかけに、親子で触れ合いながら読み聞かせを楽しむ様子が見られた。

3 意欲的に学ぶ(遊ぶ)活動の充実

- ・一人一人に合った環境を整えることで、子どもの学び(遊び)への意欲が高まり、主体的な活動につながる事ができた。
- ・縦割り班活動や異学年交流などの活動を通して、進学・進級への意欲を高めることができた。



自分たちの予想と実験結果を発表



図書委員によるビブリオバトル



くじらくん、進め!

◆来年度に向けた改善点

1 よく聞いて、考えて、関わり合う活動

- ・子どもの発達段階に応じた、目的意識や相手意識をもった聞き方・話し方を取り入れた活動を実施する。

2 読書活動の充実

- ・発達段階に応じた本の選び方ができるよう、新刊コーナーやお勧めの本の紹介など、読書の幅を広げるための工夫を充実させる。
- ・読み聞かせの大切さについて、家庭への発信を強化する。
- ・発達段階に応じた読書活動を推進し、表現力、語彙力を高めていく。

3 意欲的に学ぶ(遊ぶ)活動

- ・ICTを有効に活用し、課題やめあて、見通しのもとせ方を、さらに工夫していく。

◆重点項目の見直し

- 「1 よく聞いて、考えて、関わり合う活動の充実」「2 読書活動による表現力の土台づくり」
- 「3 子ども一人一人が意欲的に学ぶ(遊ぶ)活動の充実」

育ち

「規範意識」「健康・安全意識」「主体的な行動力」



今年度の重点

1 園児・児童・生徒との信頼関係を深め、家庭・地域とのつながりを大切にしながら、互いに認め合える関わりでの充実



互いに応援し合う激励会

2 心身の健やかな成長を促すための手立ての充実



マラソン大会に向けてのランランタイム

3 家庭・地域とともに気持ちのよいあいさつの推進



5歳児あいさつ運動

◆成果

1 互いに認め合える関わりでの充実

- ・温かな触れ合いや関わりにより信頼関係を築くことで、十分に自己表現し、互いに優しい言葉かけをする姿が見られた。
- ・行事等で、学年を越えた生徒同士の主体的な関わりがあり、互いを励まし合うことで自己肯定感を高めることができた。

2 心身の健やかな成長を促すための手立ての充実

- ・発達や成長に合わせた運動に取り組み、楽しみながら体を動かしたことで、体力、柔軟性の向上につながった。
- ・中学校では、面談やスクールカウンセラーの積極的な活用、ストレッチ集会を行うことで、気持ちの安定やリフレッシュにつながった。

3 家庭・地域とともに気持ちのよいあいさつの推進

- ・年長児や委員会でのあいさつ運動、小中合同あいさつ運動、地域の方とのあいさつ運動で、元気にあいさつする姿が見られ、自らあいさつしようとする子どもが増えた。



全身を使っのびのびと



計画委員によるあいさつ運動

◆来年度に向けた改善点

1 互いに認め合える関わりでの充実

- ・「よいこと」「悪いこと」の判断がつかず発言することがあった。相手の立場で考えて聞くこと、話すことの経験を積み重ねていく。

2 心身の健やかな成長を促すための手立ての充実

- ・スマホなどの情報機器の所持の低年齢化が進んでいる。使い方の指導やルールづくりなど、家庭と連携しながら推進していく必要がある。

3 家庭・地域とともに気持ちのよいあいさつの推進

- ・家庭・地域とともにさらなる連携を図っていく必要がある。
- ・発達段階や年齢に応じて「気持ちのよいあいさつ」について考える機会をつくっていく。



ストレッチ集会

◆重点項目の見直し

- 「1 園児・児童・生徒との信頼関係を深め、互いによさを見つけ、認め合える関わりでの充実」
- 「2 心身の健やかな成長を促すための手立ての充実と家庭への発信」
- 「3 家庭・地域とともに気持ちのよいあいさつの推進」



「優しい心」「たくましい心」「ふるさとを愛する心」



今年度の重点

1 思いやりのある言動につながる交流活動の継続と推進



一緒にお絵かき

2 活動のめあてが一人一人のゴールにつながる手立ての工夫



一緒がんばった、なかよし発表会

3 地域とのつながりを実感できる体験活動の充実と発信



大中祭 百姓踊り

◆成果

1 思いやりのある言動につながる交流活動の継続と推進

・同学年、異学年、異校種の交流活動で、子ども同士の思いやる姿を見ることができた。任せられたり頼られたりすることが、子どもたちの励みとなった。

2 活動のめあてが一人一人のゴールにつながる手立ての工夫

・保育者がドキュメンテーションを通して子どもを多面的に見取り、一人一人に関わることでゴールに向かうことができた。(園)
 ・感染症の影響で学校行事の延期、中止などがあったが、声掛けとその都度の対応によりモチベーションを保つことができた。(小)
 ・これまでの指導、経験の積み重ねで、どのような場面でも「めあて」をもって主体的に活動に取り組むことができた。(中)

3 地域とのつながりを実感できる体験活動の充実と発信

・地域の方々は、教育活動に熱心で、専門的な知識に長けた方が多い。子どもたちは地域の方に見守られ、感謝しながら活動することができた。
 ・様々な方法で自分たちの取組を地域の方に伝えることができた。

◆来年度に向けての改善点

1 思いやりのある言動につながる交流活動の継続と推進

・感染症対策をしながらの活動であったが交流活動は思いやりを育むのに有効である。今後も交流活動を行うことを前提として計画を進めていく。

2 活動のめあてが一人一人のゴールにつながる手立ての工夫

・校園と共通理解を図りながら、家庭との連携をさらに強化していきたい。
 ・自分でできることは任せ、できないことでもあきらめずに挑戦させ、最終的に達成感を味わうことのできる活動を設定する必要がある。

3 地域に関わり、学び、つなげる体験活動

・担当者や地域との共通理解のもと、「地域（の方々）のよさ」をさらに感じる体験活動を推進していく。

◆重点の見直し

「1 思いやりの場を大切に交流活動の推進」「2 期待や信頼が意欲につながり、成功体験が自信につながる場の設定」「3 地域とつながり、地域のよさを感じ、よさを発信できる体験活動の充実」



かぼちゃ販売体験



体育祭 ゴールを目指しての話し合い



初めての縄ない交流会

大潟村連携教育一斉公開保育・授業を参観 R4.12.15

～こんな意見・感想がありました～



こども園の保育を参観して

- ・子どもがのびのびと自分を表現しながら遊び、園での生活を楽しんでいる。
- ・遊びを上手につなげて広げている。
- ・年齢や場を考えた話し方、指示の仕方がすばらしいと思った。
- ・子ども一人一人の思いを大切にしながら、子どもに寄り添う先生方の姿がよいと思った。
- ・季節の装飾がとてもよい。廊下、教室がセンス良く飾られている。
- ・アレルギー対応や換気、消毒対策がしっかりなされている。



小学校の授業を参観して

- ・一人一人が自信をもって発表できる工夫をしている。
- ・子どもたちがタブレットを使いこなし、問題の解決に生かしていた。
- ・先生たちがICT機器を使いこなしていて、レベルの高さを感じた。
- ・学習指導演がこまやか。準備段階からたくさん考えられている。
- ・つまづいている子への支援がしっかりとなされていた。
- ・タブレットを見ている子どもの姿勢が気になった。視力低下が心配される。



中学校の授業を参観して

- ・既習を思い出しながら一生懸命に考えている様子が見られた。
- ・生徒が目的意識をもち、協力して実験を進めていた。
- ・学習を自分の言葉で整理できていてすばらしいと思った。
- ・生徒が引き込まれる先生の仕掛けや発問があつてよかった。
- ・プリントを、生徒と一緒に電子黒板で解くのが分かりやすい。
- ・校内がとても温かい。生徒の作品がたくさん展示されている。

大潟村連携教育研究協議会に参加 R4.12.15

一斉公開保育・授業参観のあとに、「学び」「育ち」「心」各班の取組を通じた大潟村連携教育の成果と課題について協議を行いました。学校運営協議会委員も各校園の先生方に交じり、保護者や地域の視点を生かして熱心に意見交換を行いました。



大潟村連携教育に、学校運営協議会委員が関わることで、園・学校の現状や取組が地域に伝わりやすくなります。また、学校運営協議会を通して地域の評価が子どもの成長や先生方への励み、刺激につながり、相乗効果が生まれています。



こども園部会・小学校部会・中学校部会を実施

～各部会の意見を一部紹介します～

○こども園部会

1回目 R4.7.12 座談会 R4.12.15 2回目 R5.2.6

一人一人が安心して好きな遊びができるような環境になっていました。また、うさぎ組での小麦粉粘土遊びは「やりたい子どもができる」環境にあり「全体的な活動」ではないことがよかったです。

先生が年齢に応じた指導を工夫していることがよく伝わりました。子どもの自主性に任せたり、待ってあげたりしている部分がしっかり見えました。



ホワイトボードに書かれている情報量が少し多いように感じました。話をじっくりと集中して聞く環境をつくることも大切ではないでしょうか。

5歳児のあいさつ運動は、子どもたちも張り切って行っている様子が見られました。是非今後も続けていってほしいと思います。

○中学校部会

1回目 R4.6.30 座談会 R4.12.14 2回目 R4.12.14

授業中の生徒たちの反応がとてもいいです。生徒同士の自発的な発言も飛び交う授業をたくさん見ることができました。

コロナウイルス感染症対策に尽力してくださって感謝しています。コロナ禍ではありますが、「体験」や「生徒主体の活動」は非常に重要だと思います。よろしくお願いします。



タブレットの使い方や、使用するときなのかそうではないのか、メリハリの付け方の指導を引き続きよろしくお願いします。

生徒たちが、もう少し大きな声ではきはきと発言できたらいいと思います。回答・意見が間違ってもいいような雰囲気づくりが大切ではないかと感じました。

○小学校部会

1回目 R4.7.20 座談会 R4.12.15 2回目 R5.1.18

(家庭学習の取組についての話題)机に向かうという習慣をつけさせたいです。家庭学習のノート展や、リレーノートの取組はとてもいいと思いました。

今の子どもたちのタブレットの使いこなし方がすごいと思いましたが、一方で、先生たちはそれを活用しなければいけないので大変だと想像します。



昨年も話題にしましたが、地域の伝統芸能に触れる機会を充実させてほしいと思います。中学校での百姓踊り体験を小学校で「見る」機会だけでも実施できるといいと思います。

タブレットでノートに書く時間は減っていないのでしょうか。ICTを否定するわけではなく、デジタルとアナログのバランスが大事だと思います。

今年度も「あいさつ運動」と「ながら見守り」を実施

学校運営協議会では例年6月に活動方針を確認しています。発足年度以来続けている、「あいさつ運動」と「ながら見守り」について、今年度の取組を確認しました。



今年度は学校運営協議会委員を2つの班に分け、あいさつ運動の回数を月2回(計12回)に増やして実施しました。回数をこなすごとに子どもたちも元気なあいさつを交わってくれるようになりました。



今年度の各校園の取組について

～学校運営協議会委員からこんな意見がありました～

【学び】について

- ・図書ボランティアの読み聞かせや、4、5歳児への絵本の貸し出しなど、子どもたちが十分に絵本に触れられる環境になっている。コロナが落ち着いたら未満児や3歳児も親子で借りられるように検討をお願いしたい。
- ・タブレットの持ち帰りについて、家庭での使用時間等の把握をしてほしい。
- ・ICTを活用してさらに学び合いを充実させてほしい。

【育ち】について

- ・園外でのあいさつや地域とのふれ合いについては、子どもたちも喜んでいるので今後も積極的に散歩に出かけてほしい。
- ・タブレットの活用に伴う視力への影響が気になる。今後の推移に気を付けてほしい。
- ・子どもたちの体力づくりのための取組を継続してほしい。

【心】について

- ・園児は、社協ボランティアや小中学生とのふれ合いを喜んでいて、これからも継続してほしい。
- ・子どもたちが減っているなかで、縦割り班の活動などの交流は今後も大事にしてほしい。
- ・ボランティア体験は心を育てるうえで貴重な体験になる。可能な限りボランティア活動を充実させてほしい。
- ・他校や地域との交流を充実させて、多くの人と触れ合う経験により人間的な成長を促してほしい。

学校運営協議会の皆さんの
ご意見を参考に、
令和5年度は、
こんな園・学校を目指します

大潟こども園

【学び】 意欲的に学ぶ環境づくり

- ・生活の中で、自発的・主体的に環境と関わりながらあきらめずにやり遂げる体験を通して達成感を味わわせ、自信や自己肯定感を育てる。
- ・絵本に親しみ、言葉や表現力を育てる。

【育ち】 健康で安全な生活を送るための手立て

- ・園内外で心地よいあいさつ運動を継続する。
- ・いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす。

【心】 身近な人・もの・出来事との関わり

- ・園内外で出会う地域の方との交流を喜び、思いやりの心を育てる。
- ・いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを育てる。

大潟小学校

【学び】 主体的に課題解決に取り組む子どもの育成

- ・三智（学んで得る智、人と交わって得る智、自らの体験によって得る智）による学びの充実
- ・ICTを活用した学びを深める授業づくり

【育ち】 規範意識の育成とあいさつ運動の推進

- ・学校・家庭・地域が連携して育む規範意識と「明るいあいさつ」
- ・学校行事や縦割り班活動で育む「自尊感情」「自己有用感」

【心】 思いやりの心を醸成し感動と共生を生む教育活動の充実

- ・異年齢集団活動（園小、小中連携）の意図的・計画的実施
- ・家庭と連携した思いやりの心の醸成

大潟中学校

【学び】 ICTの活用による更なる授業改善

- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにICTを有効に活用した研究を進め、学力向上に資するとともに成果を発信する。

【育ち】 開かれた学校づくりの実現

- ・学校運営協議会をはじめ、地域の協力を得て、ふるさと学習を充実させ、生徒の資質・能力を育む。

【心】 思いやりの心を育む

- ・交流活動や体験活動を充実させ、様々な人とのふれ合いを通して、相手の思いや考え、存在を敬い、思いやる心を育てる。